

新武蔵野クリーンセンター（仮称） / 施設デザイン方針（案）

外から見た人も「この地域に住みたい」と思えるもの

- ・親しみが持てるデザイン
- ・ぬくもりを感じられる視点
- ・ごみ処理施設を隠すのではなく、見せる
- ・緑豊かな環境づくり

（素材）

- ・市役所の落ち着いたレンガ調タイルに対し
茶系のテラコッタルーバーを主な素材とした
「すべての面が“オモテ”になるデザイン」を実現

敷地周辺の状況に配慮したデザイン（エコセンター）

（東面）中央通りに面する施設の顔づくり

プラットホームを地下化した地上部のスペースの活用

- ・プラットホームを地下化した地上部をコミュニティスペースとして、まちに面的な広がりと人の流れを呼び込む、イベントなどに活用できる。
- ・「ごみ処理施設を隠すのではなく、見せる」という意味から、このスペース壁面の窓から地下のプラットホームでの様子が見ることができる。
- ・見学者ルートから飛び出した階段を上ると、自由に見学ができる。

（北面）敷地北側野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターと連携したデザイン

裏面にならない、「すべての面が“オモテ”になるデザイン」

- ・テラコッタルーバーを帯状にし、コーナー部の曲面やグラデーションを施し、やわらかく、“やさしい”デザインに仕上げる。
- ・北面東側上部に、壁面緑化を施す。
- ・さらに延長した野球場が見えるデッキ、イベント広場から通り抜ける遊歩道、東側階段室、西側事務所棟のカーテンウォールから人の姿が感じられることができる。
- ・夜間は2階デッキのラインがライトアップされる。

(南面) 市役所と連携したデザイン

市役所から見て親しみの持てるデザイン

- ・南面の大きな特徴はコミュニティデッキがあり、エコセンターの開放的でオープンな施設の表情を表す。4月は桜の花見が楽しめる。
- ・階段室のカーテンウォールと壁面を茶系のテラコッタルーバーで仕上げ、市役所のレンガ調タイルと調和を図る。

(西面) 施設内で一体的に連続感のある施設構成とする。

敷地中央にあるイベント広場(仮称)との有機的な連携をもったデザインとする。

階段デッキが重要

- ・エコセンター(仮称)とエコプラザ(仮称)をつなぐ芝生広場は重要な位置づけとなり、市民が自由に入ることができ、憩いの場となる。また、芝生広場を介して、エコセンター(仮称)とエコプラザ(仮称)の活動が間近に見ることができ、ごみ処理から環境学習へ導く。そのため、芝生広場(仮称)と階段デッキで、環境に関するイベントが定期的に行うことのできるスペースでもある。
- ・階段デッキを上がった横には見学者ホールとつながったコミュニティラウンジがあり、環境、地域のコミュニティの場としても使える。
- ・芝生広場から北側の野球場、テニスコート方面へ遊歩道で連絡し、エリア全体が散策できる。

エコセンターにふさわしい煙突のデザイン

既存煙突の利用を基本とし景観にも十分配慮したデザイン

- ・エコセンター(仮称)をテラコッタルーバーで仕上げることで、やわらかく、“やさしい”デザインとするのと同様、煙突もテラコッタルーバーで仕上げ、煙突の存在を和らげる。

見学者コースの内観

- ・ごみ処理の仕組みが2階のフロアを一巡するだけで見ることができ、合わせて「武蔵野市のごみの歴史」が学ぶことができる。
- ・木質系の材質の利用により、ぬくもりを感じる設え。

協議会での建築デザインの実現のために

- ・協議会での建築デザインの実現のために、水谷副会長、日建設計が建築デザイン監修を行うとともに、事業者よりさらにより提案を求めるため、事業者側にもデザイン担当(建築デザイン、インテリアデザイン、ランドスケープ)の配置を求める。